

平成30年度
横須賀美術館 評価報告書
(二次評価まとめ)

令和元年（2019年）7月
横須賀美術館運営評価委員会

委員による二次評価まとめ（平成30年度事業の評価）

I 美術を通じた交流を促進する

【集客・交流推進】

① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。 [広報]

		(前年度)	1次評価	2次評価
達成目標	・年間観覧者数 100,000人以上	A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	A	・「集え！英雄豪傑たち」展以外は目標を達成しています。ここ数年の実績に鑑み、目標人数を再検討してもよい時期にきていると思われます。		
草川委員	A	・6回開催された企画展のうち5企画が見込みを上回っており、大いに評価できる。 ・ただ、集え！英雄豪傑たちが見込みを大きく下回った理由は、参考の事業報告書からでは読み取れない。アンケート結果は記載されているが、観覧したいという動機づけが弱かったのか？		
丹治委員	A	・観覧者数は前年度より減少しているが、継続的に目標値を達成しており高く評価できる。		
祓川委員	A			
本間委員	A	・所蔵品が同じなので飽きられないようにする企画をたてる必要がある。		
実施目標	・様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。 ・各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。 ・外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。 ・旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。 ・商業撮影の受入と誘致を推進し、美術館のイメージアップを図る。	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A	・フィルムコミッション受け入れによる収入増は、特に評価できる。(1,484,741円⇒2,134,645円)		
柏木委員	A	・実施目標に設定した各項目に対する取り組みが、達成目標の実績数値に結びついていると思われます。S評価に近いAと考えます。		
草川委員	A			
丹治委員	A			
祓川委員	S	・例年以上の努力(訴求活動、イベント等)が見られた。 ・また、口コミによる認知も広がったと感じる。		
本間委員	A	・最初のころに比べるととても努力しているように受け取れる。		

②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

[市民協働]

達成目標	・市民ボランティア協働事業への参加者数延べ2,400人 (事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して)	(前年度)	1次評価	2次評価
		S	A	
小林委員長	A			
菊池委員	S	・ボランティアイベントの参加者減少を検証(1,363⇒855)。		
柏木委員	A			
草川委員	A	・目標値を2,000人から2,400人と掲げたので、数値からするとA評価が妥当となるか？		
丹治委員	S	・ボランティア活動への市民参加とその定着は、来館者サービスの充実となっている。		
祓川委員	A			
本間委員	A			

実施目標	・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。 ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。	(前年度)	1次評価	2次評価
		S	A	
小林委員長	A			
菊池委員	S			
柏木委員	A	・改善のために工夫し、課題も把握されています。S評価に近いAと考えます。		
草川委員	A	・評価するのは難しい活動内容であるが、一次評価の理由を見る限りでは前年とほぼ同じ活動内容であるため、実施内容としては前年度のS評価でも良いかとも思われる ・更に一步進んだ活動を期待するならA評価		
丹治委員	S	・小学生のための美術鑑賞会は、児童にとり美術に興味や関心を持つきっかけとなっている。特に、ボランティアがクラスごとにつくことで、児童は安心して学ぶことができている。 ・ボランティアのスキルやモチベーションの維持・向上にむけて、様々な工夫がなされていることが評価できる。		
祓川委員	S	・ギャラリートークのスキルアップ研修等、来館者の満足度を上げる努力をしている。		
本間委員	A			

II 美術に対する理解と親しみを深める

【社会教育】

③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

〔展覧会・教育普及〕

達成目標	・企画展の満足度 80%以上	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A	・アンケート回収率を上げることが課題(0.935%) ・低評価項目(解説・順路)の分析、検証(前企画展で70%台)		
柏木委員	A			
草川委員	A	・観覧料は仕方ないが、解説・順路の満足度が例年低く、数年前までは「改善の余地がある」と理由に記載されているが、前年度から「改善は難しい点もある」に変更になっている。事実、改善は難しいことなのでしょうか？		
丹治委員	A			
祓川委員	A			
本間委員	A	・すべては企画により、客数は延び集客できる。学芸員関係者の方の腕次第だと思う。		
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回(児童生徒造形作品展を含む)の企画展を開催する。 ・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。 ・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。 ・美術への興味や関心が深まる美術関連の資料(図書、カタログ等)を、図書室で収集・整理・保管・公開する。 ・資料が探しやすく、快適に利用できる図書室環境を維持する。 ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。 	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	A	・アンケートの回答率を上げるために何か取り組まれていますか？ ・矢崎千代二展のようなゆかりの作家の業績を検証する展覧会で成果があったことを評価したいと思います。		
草川委員	A			
丹治委員	A	・幅広い興味に対応するという視点からも、多様でバランスよく企画されている。 ・企画展と合わせた講演会やワークショップの開催は、来館者の満足度にもつながっているのではないかと。		
祓川委員	A	・Sに近いA。アーティストトークやワークショップ等、作家と来館者の交流が好評である。		
本間委員	A			

④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。

[若年層への教育普及]

達成目標			
	(前年度)	1次評価	2次評価
・中学生以下の年間観覧者数22,000人	S	B	
小林委員長	B	・中学生、小学生等の生徒・児童の減少という現実は否めないとしても、平成29年度の数字から比較すると、残念であるが、一次評価同様B評価が妥当に思える。	
菊池委員	B	・年度における企画ターゲットと目標値の整合性	
柏木委員	B		
草川委員	B	・観覧者数の総数が毎年目標より上回っているため、評価理由に記載されているとおりに思うが、若年層への観覧普及の意味から今後の展覧会企画やPR活動に努めていただきたい	
丹治委員	B	・子どもや保護者が来館しやすい長期休業期間にその家族層が興味を持つ内容の企画展を継続実施していることは、目標とする数値には達しなかったが、大いに評価したい。 ・図工美術の教科書に掲載のある作家の紹介ちらしを学校に配布するなど、美術に親しむきっかけを提供していることも評価したい。	
祓川委員	B		
本間委員	B	・中学校教師の見学会を企画して、理解を深めてもらう必要があるのではないのでしょうか？	

実施目標			
	(前年度)	1次評価	2次評価
・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。 ・学校及び関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。 ・学校との連携を強化し、小学生美術鑑賞会を充実させる。 ・美術館を活用した鑑賞教育がいつそう充実するよう、アートカードの活用促進をはじめ教員の授業作りに有益な情報提供を積極的に行う。 ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。 ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。	A	A	
小林委員長	B	・美術館のスタッフが、横須賀美術館の一つの特徴ともいえる「市内の中学校や小学校の美術館的教育の意味」を検証しつつ取り組みを行っていることを評価しつつも、「美術館ならではの美術館教育」をより一層推進していただく意味で厳しい評価になった。横須賀の中学校生徒や小学校児童が置かれている地域性を考えると美術館教育を地元でという必要性が特に求められる。	
菊池委員	A		
柏木委員	S	・学校現場との連携にも積極的に取り組み、多彩な事業を実施している点をしっかり評価したいと思います。	
草川委員	A		
丹治委員	A	・児童生徒造形作品展や小中学生美術鑑賞会等、学校と美術館の連携が十分図られており、大いに評価できる。 ・児童生徒造形作品展を美術館で開催することは、子どもたちの豊かな心を育む美術館としてのメッセージ性が高い。	
祓川委員	A		
本間委員	A		

⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。		〔収集管理〕		
達成目標	・環境調査の実施(年2回) ・美術品評価委員会の開催(年1回)	(前年度)	1次評価	2次評価
			A	A
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	A			
草川委員	A			
丹治委員	A			
祓川委員	A			
本間委員	A			
実施目標	・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。 ・適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。 ・計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。 ・所蔵作品が広く価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。	(前年度)	1次評価	2次評価
			C	B
小林委員長	B			
菊池委員	B	・人為的な改善が可能なのか?施設環境的に限界なのか?		
柏木委員	S	・企画展等の実施が相応しい作品の受贈につながった点は望ましい美術品収集の在り方と考えます。「ふるさと納税」の寄附金積み立てを美術品の購入財源とすることについて、一定の道筋が開けた点は、長年の懸案でもあったので評価したいと思います。次年度以降に期待します。		
草川委員	B	・環境調査の範囲を拡大したことは前向きで良い事と思われたが、その事によって展示室の環境が必ずしも良好と言えないことがわかったと評価内容にあるが、どうしてなのか?費用・時間的などの問題なのか?		
丹治委員	B	・積極的な収集活動を行うための手立てとなる道筋ができたことはよかった。適切な運用に努めていただきたい。		
祓川委員	B	・作品購入への道筋がつけられ進歩した。		
本間委員	B	・予算をいかに確保するかが問題です。ふるさと納税で財源を!		

Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

【運営・管理】

⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。

[メンテナンス・来館者サービス]

達成目標	・館内アメニティ満足度 90%以上 ・スタッフ対応の満足度 80%以上	(前年度)	1次評価	2次評価
		S	A	
小林委員長	A			
菊池委員	S			・入り口、トイレの案内サインは早急な対応が必要ではないか。
柏木委員	A			・館内アメニティの満足度は、館のハード面の経年劣化という不可避の要因に影響されるなか、高い水準を保っていると思います。
草川委員	S			・前年度より更に満足度はアップしているのに、一次評価でAとした理由は？ ・館内アメニティ満足度90%以上の目標値だけでも高いのに
丹治委員	S			・館内アメニティ、スタッフ対応ともに前年度よりも上回っての目標値達成は、高く評価できる。日常の継続した取り組みがマンネリ化することなく、今後も高い水準を維持することを期待する。
祓川委員	A			
本間委員	A			・スタッフの親切さは印象を決める要因になりうる。
実施目標	・建築のイメージを損なわないよう、十分なメンテナンス、館内清掃を行う。 ・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。 ・運営事業者と協力して、付帯施設(レストランおよびミュージアムショップ)を来館者ニーズに応じて運営する。	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			・ハード面での改良は、メンテナンスレベルを超えられない。 ・人為的な面では配慮がなされていると思う。
柏木委員	A			
草川委員	S			・施設の老朽化が進む中、十分な改修・メンテナンスが実施されていると思う ・同じ条件・環境施設を運営している者として十分苦労は理解できる ・更には来館者のサービスも優れていると思う 以上の理由からS評価と考える
丹治委員	A			
祓川委員	A			・スタッフの件研修等の効果が見られ、Sに近いAだと思う。
本間委員	B			・クレジットカード対応も必要だが、時代はもうスマホ決済。PayPay導入を！

⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。 〔バリアフリー〕

		(前年度)	1次評価	2次評価
達成目標	・福祉関連事業への参加者数延べ360人以上	A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A ・他館連携事業の主体との関係性 ・上記にかかる目標値との関連性(オプション企画の目標値参入の妥当性)			
柏木委員	A			
草川委員	A			
丹治委員	A			
祓川委員	A			
本間委員	A			
		(前年度)	1次評価	2次評価
実施目標	・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親んでもらう(環境づくり)のための各種事業を行う。 ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。 ・展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向けの託児サービスについて、積極的に周知し、利用しやすい内容で実施する。	A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	S ・「みんなのアトリエ」や福祉イベントなど工夫が見られる点を評価したいと思います。			
草川委員	A			
丹治委員	A ・定期的に行われている「みんなのアトリエ」の内容の充実や、障害のある方々のニーズに沿った取り組みなど高く評価する。			
祓川委員	A ・障害者のニーズを知るためのレクチャーやワークショップの充実に努力している ・Sに近いAだと思う			
本間委員	A			

⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。 〔経営的視点〕

達成目標	・電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近3年間の平均値を目安とする。	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	B	
小林委員長	B			
菊池委員	B	・目安の誤差は、諸々状況を勘案して3%未満程度か。		
柏木委員	B	・達成目標については、数値の面ではBとなりますが、数値が年度毎の事業ラインナップや気象などに左右されることから、直近3年間の平均値程度という目標設定が果たして妥当なのか検討が必要ではないでしょうか？		
草川委員	A	・来館者数や天候・気温などの外的要因で電気・水道量は大幅に変動される ・昨年は特に猛暑による使用量の増加は仕方ない ・そのような状況下、契約電力の変更を行い、電気料の削減を実施している		
丹治委員	A			
祓川委員	B			
本間委員	A	・だいぶ改善されてきたと思う。雨水の再利用などはされていますか？		

実施目標	・職員全てが費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	A	・展覧会関連出張の効率的な計画は必要ですが、交渉等の相手の都合に左右される他律的要因もあることを勘案する必要があります。		
草川委員	A	・上記記載の状況下でも、サービスを低下させずに運営される努力や経費削減努力が全館あげて見られる		
丹治委員	A	・施設設備の維持管理やサービスの不足にならないようスリム化を意識して、事業に取り組んでいただきたい。		
祓川委員	A			
本間委員	A			